

(別紙様式2)

## 令和5年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立峰山こども園 ]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>“元気いっぱい 笑顔いっぱい こども園 だ～い好き！” ～いっぱい遊ぼう 夢中になって～</p> <p>1 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体で生きる力を育てる。</p> <p>2 主体的に活動し、言葉を介してコミュニケーション力を育てる。</p> <p>3 身近な人や地域とのかかわりをもつ力を育てる。</p> <p>4 友達と関わりながら、夢中になって遊び込める環境を整えながら、持続力や協同力を育てる。</p>		<p>○保護者と連携を持ちながら、感染症対策に努め、様々な行事や活動の仕方・内容を見直し、着いた雰囲気の中で安定した園生活や活動を送りながら、教育・保育を進めることができた。</p> <p>○様々な実体験を通して、感動体験や学びに向おうとする姿勢、豊かな言葉力に繋げることができた。</p> <p>○園児が言葉で伝え合いながら主体的に協同活動を進めたことで、達成感や満足感を味わい自己肯定感に繋げることができた。</p> <p>△開かれた園として、地域への情報発信の手段であるホームページの活用や、タブレットを使って保護者への配信を行ってきたが、更新や配信が十分とは言えなかった。</p> <p>△職員の資質向上のための園内研修に努めてきたが、時間を確保するための体制を組むのが難しかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児自らが生活の仕方や健康に関心を持ち、規則正しい生活が習慣になるようにする。</li> <li>・様々な体験を通して、豊かな感性や言葉の力を養う。</li> <li>・「楽しいこども園」を基本に、遊びを中心とした活動の中で、コミュニケーション力や持続力、学びに向かう力を育てる。</li> <li>・園児の主体的に取り組む姿を認めながら、他者と関わる力を育てる。</li> <li>・保護者が安心して子育てができるように子育ての不安に寄り添い支援する。</li> <li>・地域に開かれた園として、情報発信に努める。</li> <li>・滑らかな接続ができるように、峰山学園(保幼小中一貫教育)の連携を深める。</li> </ul>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
<p>保幼小中 一貫教育 の推進 (保幼小 接続)</p>	<p>『峰山学園』の連携 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲を持って自ら学ぶ子どもの育成</li> <li>・コミュニケーション能力の育成と適切な人間関係の育成</li> <li>・園小の円滑な育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・峰山学園経営会議を通して園児・児童の実態を交流する中で、共通の目標を持ち、ことばによる伝え合いを軸とした教育・保育を進める。</li> <li>・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえ、幼児期から中学校まで一貫した指導を共有する。</li> <li>・人と繋がる楽しさを味わい、ことばで伝え合う力を育む。</li> <li>・「保幼小の架け橋プログラム」を反映しながら、小1スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの検証を私立園や学園担任会と行い、教育・保育内容の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経営会議の中で、非認知的能力や言葉の力の育成、主体的な活動の実践など、園で大切にしていることを伝え連携することができた。</li> <li>○学園担任会参加時間を十分に確保したことで学校と園の距離が近くなり、連携を密にすることができた。また、互いの活動や学びをより深く知り、園の教育・保育に活かすことができた。</li> <li>○アプローチカリキュラムを再度見直し、それをもとに実践に反映することができた。</li> <li>○学園で実施している「おはようあいさつ運動」を保護者会協力のもと、こども園でも同日に実施し、一貫教育の連携を深めることができた。</li> <li>△様々な研修会では、開催時間や体制上、管理職のみの参加となることが多く、保育教諭が公開授業を参観したり、事後研修で話し合ったりして直接学ぶ時間がもてず、報告のみで終わってしまった。</li> </ul>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>感動する体験や伝統行事などを大切に、豊かな感性やコミュニケーション力を養う。</li> <li>基本的な生活習慣や態度を育てる。</li> <li>自分の思いや考えを表現したり行動したりできる力を養う。</li> <li>日常的に園内外での安心・安全に過ごそうとする姿勢・態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内外での感動体験や発見などを通して、考えたり工夫したりしながら生活や活動を行う。また、地域の伝統行事など、人と繋がる楽しさを感じられるような取り組みを進める。</li> <li>挨拶を通して、人と関わることの心地よさを感じさせるためにあいさつデーを設定したり、生活点検表などを作成したりして、生活習慣を整えていく。</li> <li>園児が主体的に話し合ったり、協同的な活動を進めたりできるように計画を密にする。</li> <li>園児の生活や発達の状況を把握し、個々に合った助言や援助・指導を行う。</li> <li>園外保育を通して、実際に交通ルールを体験したり、学んだりしながら、園内では、生活や遊びを通して、集団でのルールを園児と考えたり、知らせたりして、様々な場面での危機管理について学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な実体験を通して、考えたり工夫したりしながら活動を進め、個々の子どもの思いを受け止め関わることで、考えたことを表現する力や言葉の力が育ってきている。</li> <li>一日の始まりを元気な挨拶と捉え、保護者会と協力のもと、たくさんの園児や保護者に挨拶の心地よさや人との関わりのきっかけを伝えることができた。</li> <li>園児が取り組む活動や行事のあり方を、個々の生活や発達を大切にしながら見直すことで、主体的で協同的な活動が進められた。</li> <li>期間を決めて生活点検を行い、生活リズムを整えるきっかけとなった。</li> <li>△交通ルールや安全意識について、絵本や紙芝居などで知らせてきたが、散歩などで実際に歩いてみる体験が、交通量の多さや気候の変動(暑さや雨など)で十分に持つことができなかった。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育ての不安に寄り添い、安心して子育てができるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の思いや不安な気持ちに寄り添いながら、相談がしやすい雰囲気をつくり丁寧に対応をする。</li> <li>園開放や園庭開放・懇談会など、保護者同士が交流し合える場を提供する。</li> <li>園児や家庭の実態を把握し、保護者との連携を丁寧に、個々に合った支援や対応をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎時に、職員から率先して園の様子や家庭での悩み・困り感など、話を聞く機会をもつことができた。</li> <li>園の活動を実際に見たりできる園開放や、保護者同士が交流できる園庭開放を計画的に作るなど、保護者が交流する場をもつことができた。</li> <li>子育て実態について話し合い、検討を進めながら、保護者の思いや園児の実態に合わせた関わりや関係機関との連携を行い、子育て支援を進めることができた。</li> </ul>
研修 (教員の 資質向上・ 人権教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修の充実を図り保育教諭の資質向上(人権を含む)に努める。</li> <li>保育支援システムや ICT の活を効率よく進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員同士で保育の振り返りや意見交流などの時間をもったり、指導力や関わり方など学び合ったりするためにドキュメンテーション・公開保育・担任会・事例研修などを行う。</li> <li>保育支援システムを活用し、職員会議や学年会議等の教育・保育の実践に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な公開保育や研修を受け、報告を行うことで、個々の捉えや関わりなど振り返る機会となり、資質向上に繋がった。</li> <li>人権教育について、振り返りシートを活用して意識調査を行い、結果を職員間で共有し、学び合うことができた。</li> <li>タブレットを使い、各担任のドキュメンテーションや日々の活動のまとめを見ることで、研修時間の縮小や教育・保育実践の参考となった。</li> </ul>
次年度に向けた 改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の取り組みを発信しながら、私立園や小中の連携を深め、学園の目標に合った実践に繋げていく。</li> <li>実体験を通して感動や達成感を味わい、主体的な言動(言葉や行動)ができる園児を育てるための教育・保育を進めていく。</li> <li>保護者や地域の方と繋がり、日々の生活や活動・行事について工夫し、開かれたこども園を目指す。</li> </ul>		

(別紙様式2)

## 令和5年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立大宮こども園 ]

こども園経営方針 (中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<p>人との関わりや体験を通して、心豊かでたくましく、生き生きと遊ぶ子どもの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心も体も元気な子どもの育成</li> <li>・のびのびと遊び、感性豊かな子どもの育成</li> <li>・人の話を聞き、自分の思いや考えを言える子どもの育成</li> <li>・自分も友達も大好きで、思いやりのある子どもの育成</li> </ul>		<p>○コロナ感染防止を図りながら、小1プロブレム解消のための保幼小の連携活動やアプローチプログラムに基づいた教育活動を進め、小学校への期待感を膨らませるとともに、心構えを育てることができた。</p> <p>○同年齢や異年齢で様々な体験活動を通して、発見や感動を豊かに言葉や体で表現するようになった。また、友達と夢中になって遊び、園児同士で遊びを進めていく姿が見られるようになった。</p> <p>△コロナ感染防止や登降園方法の変更等から、保護者との直接会話の機会が減り、即日の子育ての連携がタイムリーに実施できなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を身に付け、見通しをもって主体的に生活や活動ができる環境を工夫する。</li> <li>・恵まれた自然環境の中で、人やものと関わりながらたくさん体験や伝統的な行事、様々な文化や生活の仕方に触れ、表現力や思考力の芽生えを培い、豊かな感性を育てる。</li> <li>・友達と関わり、ルールや規律・善悪の判断など、生活や遊びを通して規範意識の基礎を育てる。</li> <li>・友達との関わりを通して、互いの思いや考えなど違いがあることに気づき、折り合いをつけながら互いの良さを感じ、『みんな違ってみんないい』『自分も友達も大好き』と思える豊かな心を育てる。</li> </ul>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大宮学園の教育目標を踏まえ学園の方針に基づき、取り組みを進める。</li> <li>・小学校との連携を密にし、スムーズな接続を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大宮学園の『人権教育・ことばの力の育成』の取り組みを、保育参観や園内研修で理解を深め、実践につなげる。</li> <li>・学園内での授業研究会に参加したり、こども園の公開保育を行ったりしながら、職員間の資質、能力の向上につなげ、10年間の滑らかな接続を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学園の方針を園内で共通理解するために学園コーディネーターを招いて研修会を開き、学園の目標や園の教育・保育への実践に向けての話し合いを進めるきっかけとなった。</li> <li>○乳幼児保育の大切さを理解してもらうために公開保育や実践報告などを行うことで、職員相互の学びとなり10年間を見通した指導へのつながりの大切さが分かり合えた。</li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</li> <li>・様々な環境に関わり、感動体験を通して、豊かな感性を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が身につくように、時間を決めたり、園児と話し合ったりしながら、生活や遊びを進める。</li> <li>・恵まれた自然環境や様々な人とのかかわりの中で、実体験を通して、心を揺さぶる体験や感情体験の充実を図る。</li> <li>・様々な体験を通し、驚きや感動を自分なりの言葉や表現で伝えることができる環境を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通して、毎日時間を決めてサーキットなどを行うことで生活リズムや持ち物の始末などの習慣や態度を身につけることができた。また、時計を見て過ごしたり活動するなど園児同士で声をかけ合ったりして行動する姿が見られるようになってきた。</li> <li>△自然に恵まれた地域であるが、交通量の多さからの安全確保が難しく、園外に出る機会が少なかった。</li> <li>○園内の環境築山を利用し、アスレチックをつくり全身を</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする豊かなコミュニケーション能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活や遊びについて、伝えることや伝わった時の喜びを感じることができるよう個々に合った振り返りの時間や場をもつ。</li> <li>・園児一人一人の良さを認め、主体的に展開できる教育・保育を進める。</li> </ul>	<p>使った遊びができるように進めていくことで感情・感動を言葉で表現する園児が増えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な体験から「話したい」「伝えたい」という気持ちが膨らみ、振り返りの時間を利用して発言の場をもち、友達に伝えることの嬉しさを感じる園児が増えてきたが、上手く伝えられず友達や保育教諭に補ってもらい話すことを経験する園児もいる。</li> <li>○一人一人の興味のある活動（遊び）を知り、それぞれに合った環境を園児と一緒に準備することで主体的に行動しようとする姿が見られてきた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の気持ちに寄り添い、安心して子育てができるよう支援する。</li> <li>・一人一人の個性を大切にしながら集団生活の中で育ち合えるよう支援を園全体で進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の送迎時や個人懇談、一時預かり保育などで子育てについて話したり、悩みや不安、ストレスを抱えている保護者の相談にのったりしてリフレッシュ支援を行う。</li> <li>・園での誕生会で、保護者に日常の感謝の気持ちを込めて「子育てがんばったで賞」を贈呈し、共に楽しんでいけるようにする。</li> <li>・園児一人一人の特性に応じた支援や配慮を全職員で共通理解し、園児と共に温かい人間関係づくりに努めながら、互いを認め合う肯定的な関係をつくっていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話しやすい雰囲気をつくり、温かく迎えることで信頼関係を築くことができ、共に子育てについて、思いを伝え合うことができた。</li> <li>○誕生会で園児のみを祝うのではなく、保護者の今までの頑張りに対して、手作り頑張りカードを送ることでより気持ちに寄り添った子育て支援につながった。</li> <li>○全職員で日々個々の状況を伝え合い、同じ対応をすることで園児にも多国籍児・医療ケア児・支援児また、異年齢交流等で言葉を交わし、お互いを認め合ったり、思い合ったりする姿が見られるようになってきた。</li> </ul>
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域に開かれた園づくりを目指す。</li> <li>・地域の環境・文化・人との出会いや体験を通して親しみがもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育支援システムを利用して園生活の様子や園の教育・保育をタイムリーに情報配信し、地域の園としての活動・行事を進める。</li> <li>・学校ボランティアや食いく先生など、地域の人と自然体験や文化に触れることができるような連携を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育支援システムやホームページを利用して園の教育・保育について理解を深めてもらうために発信してきたが、内容の組み立てや検討の時間を確保するのが難しかった。</li> <li>○地域の人（食育・田んぼの先生、読み聞かせ）地区のゆかりのある人（鯉のぼりの職人・地区の絵画展など）との文化交流をもつことで園児を真ん中におき、保護者と地域をつなげるきっかけとなった。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の挨拶が一番大切であり、大宮学園の取組「ハイタッチ モーニング」を定着させ、心を育成するための教育活動の充実を図る。</li> <li>○自他を認め、「みんな違ってみんないい」「自分も友達も大好き」と思える子どもの育成を図る。</li> <li>○直接体験からの感動を経験し、ことばの力の育成に努める。</li> <li>○園の教育・保育を広く理解してもらうために情報を配信する。</li> <li>○地域への愛着がもてるように地域の人との自然体験や文化に触れる機会を計画的にもつ。</li> </ul>		

(別紙様式2)

## 令和5年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立網野こども園 ]

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	
<p>『園児自らが主体的に環境に関わり、心豊かでたくましく生きる力を育てる。』</p> <p>(あ)明るく元気で主体的に活動する子どもの育成</p> <p>(み)みんななかよく思いやりのある子どもの育成</p> <p>(の)伸び伸び生き生きやりぬく子どもの育成</p> <p>&lt;テーマ&gt;</p> <p style="text-align: center;">『どきどき わくわく きらっ！ ひとりひとりがかがやいて』</p>	<p>○コロナ禍ではあったが、小学校との連携交流はできる限り積極的にアプローチしていくことで、幼児期の教育・保育について理解を深めたり、学習発表会リハール等を見学したりすることができた。また、アプローチプログラムや非認知能力の育成について、自園で作成した実践シートを活用しながら園内研修を積み、全職員で検証し共有することで、全年齢の遊びや学びにつながることができた。</p> <p>○一人一人のウェルビーイングを高めていくことを念頭に保護者との面談を繰り返したり、こどもクリニック等と同行したりする等、個別最適な支援を最優先とした教育・保育を進めたことで、主体性や協同性を伸ばすことができた。</p> <p>○家庭生活や生活習慣の不安定さにより、園児の内面に抱えている不安感等が大きく、園だけでは支え切れないこともあったが、保護者との連携を密になしながら、一人一人の成長を共有し、園児らしさやよさを受け止め、愛情豊かな関わりをすることができた。</p> <p>△教育・保育に対するベクトルを揃えるため、職員間で協議を重ねたが、引き続き園内研修やOJTを重視し、人材育成や質の向上を図る取組みを進めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非認知能力の育成について、網野学園での取組や研修等を踏まえ園でも共有し、実践や検証をしていく。また、アプローチプログラムや『幼児期の終わりまでに育って欲しい姿』をもとに、さらに小学校との連携を密にしていく。</li> <li>・乳幼児教育・保育の中で意識したいSDGsの項目を選定したり、捉え方を見直したりして、園全体で取り組めるようにする。</li> <li>・園児やその背景にある家庭を支援するため、保護者との連携を深めるとともに支援体制を充実させ、一人一人のウェルビーイングを高めることを目指す。</li> <li>・健康的な生活習慣の確立に向けた取組と園内外での安全指導や安全対策を考慮する。</li> <li>・職員一人一人が人権意識をもち、同僚性やOJTを積み上げ、質の高い教育・保育につなげる。</li> </ul>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
保幼小中 一貫教育 の推進 (保幼小 接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「網野学園」の教育目標をもとに、基本方針や取組内容を理解しながら教育・保育を進める。(確かな学力の育成・規範意識の醸成・豊かな人間性・非認知能力の育成等)</li> <li>・園児と児童の交流の機会や保育教諭と教師の研修の場を重視し、相互理解を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網野学園経営計画を全職員で共有するとともに、第2期『未来を拓く学校づくり』のプランを理解し、研究の方向性を確認しながら、教育・保育を進める。</li> <li>・園児と児童の交流や教育内容の共有を深め、幼小の職員同士でアプローチプログラムや非認知能力の育成を検証したり取組みを進めたりする。</li> </ul>	<p>○網野学園経営会議や全体研修会参加報告等を通し、学園で育成したい非認知能力について職員間で共有した。また授業研究会に参加し、意見交流ができたことで園での教育・保育の言語化や明文化する等、実践に向けた取組が定着した。</p> <p>△園児と児童との交流では内容を工夫し、もう少し互恵性のあるものを考えていきたい。また、アプローチプログラムや非認知能力についての視点を重視し、実践検証をしたり取組を深めたりしていく。</p>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>『包み込まれているという感覚』を醸し出し、園児が楽しい園生活を過ごせるようにする。</li> <li>主体的・対話的な遊びをくり広げられるような環境づくりをする。</li> <li>人とつながり合うことの喜びを味わえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園での温かい雰囲気と生活習慣の確立を基盤に、安心安定した園生活になるよう園児と保育教諭等の信頼関係を築く。(心の居場所づくり)</li> <li>遊びの中の学びを見取りながら、集団の中で一人一人が生き生きと園生活を過ごすことができるような環境を整え、実践する。(園生活の充実)</li> <li>園児が主体的に協同的な遊びを展開したり、探求心をもって遊んだりすることができるような環境の工夫や援助をする。(遊びの充実)</li> <li>友達と一緒に過ごす中で心地よさや友達のよさや違いを感じ、受け入れたり思いを伝えたりすることができるような関わりを大切にす。(同年齢・異年齢児との関わり、言葉でのやりとり、遊びの発展等)</li> </ul>	<p>△園では温かい雰囲気づくりや一人一人に応じた配慮を心掛けているものの、生活習慣においては、それぞれの家庭で認識の差があった。また、保護者の多様性を理解し、対応する難しさも感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の遊びを重視し、そこからつないだ運動会や発表会の取組を通して、園児の生き生きとした姿が見られるようになった。</li> <li>○保育者が遊びや行事を見通し、園児が自己決定をしたり、やり切ろうとしたりする雰囲気をもつ等、環境の工夫が園児の主体的な遊びの充実につながった。</li> <li>○集団遊びや活動の中で、友達と一緒にする楽しさを感じたり、受け入れたりすることができるようになってきた。言葉での表現が難しい場合は、保育者が仲介することで気持ちが伝わった喜びを感じたり、相手の思いを汲んだりする姿につながっていた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> <li>未就園の親子を対象にこども園を開放し、子育ての安心安定を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者に園児の様子を知らせる(園だより、クラスだより、保育支援システムによるお知らせ、懇談会等)とともに、『網野学園家庭学習頑張り週間』の取組を通して基礎基本の大切さを意識付ける。</li> <li>「園開放日」や子育て支援センターで保護者同士が交流できる場をもち、子育て情報を交流したり、こども園での雰囲気を知ったりすることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園児の様子は、送迎時の対話やホームページ、クラスだよりを中心として、より詳しく知らせよう努めた。網野学園の頑張り週間が定着し、家庭での読み聞かせや生活習慣の大切さを意識する保護者が増えた。</li> <li>△支援センター内での情報は、園児の生活背景を知るツールになっているが、園舎が離れていることもあり、園開放の参加は少なく、保護者同士の交流には至らなかった。</li> </ul>
研修 (教員の 資 質 向 上・人権 教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ研究や園内研修を通して、全職員の資質向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>網野こども園教育・保育計画の重要事項を全職員で共通理解し、個別最適で協同的な教育・保育の在り方を実践できるようにする。</li> <li>人権意識をもちながら園児や保護者、職員同士が向き合い、関わり合うことを重視するとともに、教育・保育の質の向上を目指すため、園内研修を充実させる。</li> <li>同僚性やOJTを最大限に活用しながら、職員の人材育成につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育者が園児の多様性と一人一人の丁寧な見取りが大切であることを共通理解しながら、主体性を重視する教育・保育につなげている。</li> <li>△教育・保育における人権意識の大切さは重視しているが、関わり方や捉え方は個人差にも係わるので、機会を捉えて研修をしていく必要がある。</li> <li>○教育・保育内容や園児理解、支援策について等、ベクトルを合わせて実践できるようOJTを重視してきた。</li> </ul>
次年度に 向けた 改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>非認知能力の育成に係わって、園児一人一人に視点をおいて探るとともに、認知能力との相関性を可視化して職員同士で共有する。</li> <li>子育て支援の在り方として、多様性を踏まえながら園児やその家庭に適切に提供できるよう、園内で作成した『こころの育ち指標図』をもとに、全職員の連携を強化し実践する。</li> </ul>		

(別紙様式2)

## 令和5年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名〔 京丹後市立丹後こども園 〕

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や遊びの中で様々なことに心を動かし、豊かな園児を育む。</li> <li>・地域に愛され、保護者に信頼される園づくりを進める。</li> <li>・資質向上を目指し、職員同士が互いに学び合える組織づくりを進める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○たくさんの人やものに関わる経験を重ねたことで、思いを伝え合う姿が見られるようになった。</li> <li>○小学校との連携では限られた時間の中での的確に伝えることの難しさは感じたものの、学園の経営会議や授業参観保育参観等で園児や児童の様子を把握し、情報交換することによってスムーズな接続につながった。</li> <li>○コロナ禍ではあったが、感染予防をしながら異年齢活動を進めたことにより思いやりの心やあこがれの気持ちをもつことができた。</li> </ul>	<p>「いっぱい遊んでつながって」 ～感じよう 伝えよう 伝え合おう～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人やものに関わったり、自然と触れ合ったりしながら豊かな心を育てる。</li> <li>・異年齢児と様々な活動をする中で、わくわく・どきどきの感動体験を積み重ねる。</li> <li>・健康で安全な生活や活動に必要な習慣や態度を養い、心身の健康や食習慣の基礎を培う。</li> </ul>
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『丹後学園』間の連携</li> <li>・学園の教育目標を踏まえ基本方針に基づき取り組みを進める。</li> <li>・保幼小の連携を密にし、就学に向け滑らかな接続となるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園の会議や授業参観などに積極的に参加し、育てたい力(ことばの力、自尊感情、自主性、コミュニケーション力)を全職員で共通理解できるようにする。</li> <li>・小学校と連携し、公開保育や授業参観等を通して、互いのカリキュラムについての理解を深める。</li> <li>・小学校への滑らかな接続をなるようアプローチプログラムやスタートカリキュラムを理解、活用し、実践につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経営会議や授業参観に参加することにより子ども達の実態を把握し支援や連携について参考となった。</li> <li>△園の公開保育では、幼児教育への理解へとつながっていると感じたが、参加者が少なく話し合いを通しての学びにつながらなかった。</li> <li>○小学校との接続は、一年生だけの交流ではなく活動内容を職員間で検討し、進めたことで就学を期待しながら楽しむことができた。</li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育、教育活動の充実</li> <li>・安心安定した中で、言葉や態度で表現しようとする園児を育てる。</li> <li>・様々な人やものに関わる活動を取り入れ、コミュニケーション力や思考力の芽生えを培う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児や保護者一人一人の思いを受け止め、居心地のよい中で生活習慣が確立できるような環境づくりを進める。</li> <li>・園内外の人と関わる機会(絵本の読み聞かせ、交通教室など)を取り入れ、言葉の意味や響き、面白さや美しさなどを味わい、人に対する信頼感や思いやりの気持ちが持てるようにする。</li> <li>・生活や遊びの中で、自分の思いや考えを伝える、相手の話を聞く、受け止めるなどの体験を通して互いを認め合い大切にすることを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登降園時や個人懇談等で保護者の思いや考えに寄り添いながら、園児の状況を共通理解することができた。また、幼児クラスは年2回夏・冬と生活点検表を活用したことで早寝早起きなどを意識する園児が増えた。</li> <li>○ボランティアによる絵本の読み聞かせを定期的にお世話になったり、警察官や消防士の防犯防災訓練を受けたりと身近な人と関わる機会をもつことで交流や地域への関心をもつことができた。</li> <li>○様々な活動をする中で、自分の思いや考えを伝えようとする園児の姿がたくさん見られるようになった。職員が仲立ちをすることにより少しずつ互いを受け止め、認め合う姿も見られるようになってきた。</li> </ul>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健康な園児を育成する。</li> <li>豊かな心をもつ園児を育成する。</li> <li>進んであいさつや返事ができる園児を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝マラソンやサーキットなど園児の興味や関心に合わせ運動を取り入れ多様な動きを経験できるようにする。</li> <li>様々な人やもの、自然との関わりの中で、自然の不思議さや思い通りにならないもどかしさなどの感情体験ができるようにする。</li> <li>毎朝玄関で一人一人を温かく迎え入れ、気持ちよく登園できる環境をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○巧技台や固定遊具を使った活動を継続して取り組むことで、体が目覚め、友達と一緒に体を動かし、集中して楽しむことができるようになってきた。</li> <li>○異年齢の行動を真似てやってみたり、一緒に遊んだりする中で、我慢や悔しい気持ち、友達の役に立つ喜びなど繰り返し体験を重ね、活動を発展させることができてきた。</li> <li>○毎朝、職員が園児や保護者を玄関で迎え、元気な声で挨拶を交わすことで心地よさを感じ、5歳児が進んで挨拶当番を決め、玄関で迎えてくれるようになった。また、自ら挨拶をする園児の姿がみられるようになってきた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と連携し、それぞれの家庭に合わせた支援をする。</li> <li>一人一人の発達の過程を考慮した支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登降園時、クラス・個人懇談会等で、園児の良さや変容等を保護者に伝え、共に成長を喜び、子育ての楽しさや悩みを相談できる場や機会を設ける。</li> <li>たよりや懇談会などで基本的な生活習慣を身に付けることの大切さを伝え理解してもらえるようにする。</li> <li>園での様子を伝えたり、保護者から発達の状況や家庭の様子を聞いたりしながら、園児の課題や今後の方向性について共通理解し、医療や療育など関係機関とも連携し、一人一人に合わせた支援ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園の生活や活動の様子を動画・ドキュメンテーションなどで保護者にアプリを使って、タイムリーに知らせてきたことで保護者への報告・相談などの連携が進めやすかった。</li> <li>△生活点検をする期間を設けたが、一時的には意識できるものの継続していくことの難しい家庭もある。</li> <li>○支援の必要な園児に対しては、保健師や医療などの関係機関と連携し、保護者と園内の支援の仕方について検討することで統一した支援や関わりをすることができた。</li> </ul>
研 修	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内研修の充実を図り、職員間の資質向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児一人一人にあった指導をするため職員同士が園児の発達課題を共有し、援助や環境の工夫について話し合う機会をもつ。</li> <li>公開保育や実践交流などを通して保育を振り返りながら、常に職員間で話し合える環境を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育アドバイザーや作業療法士に保育や園児の様子を見てもらうことで、保育の振り返りや援助・環境について話し合い改善することができた。</li> <li>△職員会議や日々の保育の振り返りをする中で援助や環境について話し合う機会をもつことはできたが、会計年度職員に細かく伝えることができない時もあり、実践につながらないこともあった。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹後学園での縦のつながりの中で、幼児教育の大切さや関わりの基本であることを伝えるために公開保育を行い、研修を重ねる。</li> <li>生きる力を育むための基本的な生活習慣を身につけることの大切さを知らせていく。</li> <li>保育の環境や援助の仕方について、共通理解ができるように研修や話し合いを重ねる。</li> </ul>		

(別紙様式2)

## 令和5年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立弥栄こども園 ]

こども園経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)
1 生活に必要な習慣・態度を身に付け、健康な心と体を育てる。 2 自ら様々な環境に関わり意欲的に遊ぶ中で豊かな心を育てる。 3 身近な人や地域と関わり、思いやりの心や人権意識、規範意識の芽生えを育む。		○登園時、担任が玄関で受け入れたり、5歳児が弥栄学園で進めている「あいさつ運動」を玄関で行ったりすることで、多くの園児が元気に登園するようになってきた。 ○見たことや感じたことをいろいろな表現で伝える園児の姿を職員が丁寧に聞いたり、共感したりして園児の伝えたい気持ちを大切にすることができた。 ○マラソン、サーキット遊び、固定遊具を使った運動遊び等、季節に合わせた場所・決めた時間に行うことで、粘り強く挑戦する気持ちや達成感、充足感など、様々な感情を味わいながら豊かな心と体を育むことができた。 ○登降園時に園児の様子を伝えながら、保護者の思いや悩み・不安を共有することで、安心した表情に変わっていった。 △園児が友達と一緒に考え、活動や生活を進めていく中で、職員が「こうだろう」「こうなってくれたら嬉しい」という思いが強く、保育者主導となることがあった。	・一人一人が安心安定できる環境を整え、意欲的に生活や遊びに向かう中で基本的な生活習慣を身に付け、自立心を育む。 ・園児自らが周囲の環境に関わり活動する充実感を味わいながら、発達に必要な経験を積み重ね豊かな心を育む。 ・いろいろな人との関わりを通して、自分の思いや考えを伝えたり、人の話を聞いたりする等、コミュニケーション能力と思いやりの心を育む。 ・園児のあるがままの姿を温かく受け止め、自己肯定感を育み、相手の良さや多様性を認め合える柔軟な心を育む。 ・家庭、学校、関係機関及び、地域との連携を行い、充実した教育保育を進める。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
保幼小中一貫教育の推進 (保幼小接続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>弥栄学園の教育目標を踏まえ学園の基本方針に基づき、取り組みを進める。</li> <li>小学校との連携を密にし、スムーズな接続を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>弥栄学園の指導の重点の内容と園児、児童、生徒の実態を把握し、不登校の解消などについて取り組む。</li> <li>弥栄学園の諸会議や公開授業・保育などに参加し、全職員でスタートカリキュラム、アプローチプログラムの検証を行いながら、実践を重ね、幼少期に育成する資質、能力を明確にして、小学校への滑らかな接続を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営会議で各校園の園児、児童の様子を交流することで、園児の卒園後の言動や兄弟関係の様子が分かり、学園での縦のつながりを見取り、園としての関わり方を考えることができた。</li> <li>学園の研修で公開保育と報告会を行い、実際に園児が活動を進める姿や保育者の言動(その関わり)を参観してもらい、乳幼児期の大切な関わりと捉え方など連携の仕方について検証ができた。</li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育教諭との信頼関係を基盤に安心、安定の中で園生活を楽しみ、自分の力で行動する充実感を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児一人一人の生活実態や年齢・発達に応じて、必要な支援方法を考えたり、異年齢との連携を進めたり、実践につなげる。</li> <li>生活や遊びを通して、園児が保育教諭に見守られながら自己発揮したり、きまり(ルール)の必要性に気付いたり、気持ちを調整したりできるように関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育教諭間での連携と保育環境(場での人数配慮、音量など)を工夫し合うことで少しずつ落ち着いた環境で生活や活動を進めることができた。</li> <li>園児一人一人の気持ちの安定を図ることを第一に考え、園児の心を受け止め、関わることで気持ちに折り合いをつけたりすることができる園児が増えた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な生活習慣を身に付け、見通しをもって行動する園児を育てる。</li> <li>・ 自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとしたりする意欲や態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一日が気持ちよく迎えられたり、送れたりできるように挨拶の大切さを知らせたり、人とつながる心地よさを感じられたりするように対応に心がける。</li> <li>・ 友達と一緒に体操、マラソン、サーキット遊び等、体を使った遊びを積極的に取り入れ、健康な体づくりをする。</li> <li>・ 園内外の自然体験を通して、感じたことや考えたことを様々な方法で表現できるようにする。</li> <li>・ 園児や保護者に丁寧な挨拶や対応を行い、居心地のよい環境づくりや関わりを進めていく。</li> <li>・ 絵本などに親しみ、言葉の楽しさや美しさに気付き思いを巡らせ保育教諭や友達と同じ世界を共有し、心通わせる経験をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登園してきた親子を5歳児の挨拶当番が玄関で出迎えた。元気な声の挨拶で迎えらる親子の表情は嬉しそうに朝から園は活気づき、年下の園児の良い手本となっている。</li> <li>○ 朝の体の目覚めや体づくりのため、年間を通して計画的に体操やマラソン・サーキットなどを取り組むことで園児同士や保育者と楽しみながら進めていくことができた。</li> <li>△ 園児の言動を読み取り、すぐに対応できるように職員間で連携し、環境を構成することで感じたことを伝えようとする姿が見られるようになってきたが、個人差はある。</li> <li>○ 園児や保護者の話を丁寧に聞いたり、状況や様子を伝えたりするなど、安心して話ができる関係をつくることで落ち着いた園生活の進めていく園児の姿につながった。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者の子育ての不安や悩みに寄り添い、喜びや楽しさを感じられるように支援をする。</li> <li>・ 未就園児の子育ての不安解消を図り、楽しく子育てができるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者が園児の成長に気付き子育ての喜びを感じられるように登降園時に園児の日々の様子を伝えたり、園だよりやクラスだよりの発行、保育支援システムで配信したりする。</li> <li>・ 保護者の就労や家庭事情、子育ての悩みや不安、ストレス等配慮し、悩みを抱えている保護者への相談にのったり、リフレッシュ支援を行ったりする。また、不適切な養育等が疑われる場合は、関係機関と連携し適切な対応を図る。(個人懇談、一時預かり保育等)</li> <li>・ こども園や地域子育て支援センターで、未就園児の親子や、出産方に前の保護者が育児を楽しんで行えるように相談にのったり、遊んだりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 園からの情報を園だより・クラスだよりで伝えてきたが、その日の活動の様子などの写真や動画などで発信できる保育支援システムの利用することが少なかった。</li> <li>△ 園児の家庭環境を考慮して、園内での面談を重ねたり、関係機関と情報を共有したりすることで連携をもつことができたが、中には寄り添い方に苦労した家庭もある。</li> <li>△ 未就園児の保護者との関わりをもつ機会が少なく、思いや様子を知ることがあまりできなかった。</li> </ul>
研修 (教員の資 質向上・人 権教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児一人一人の発達や家庭環境を考え、温かい関わりで支援できるよう職員の人権意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園児のいろいろな姿を受け止めたり、寄り添ったりしながら自信を持って支援ができるような方法を学び合う。</li> <li>・ 日常的に保育内容についての話し合いの場を持ち、保育を振り返り、園児一人一人がよりよい関わりや支援が行われているかなど園内研修を行い、共通理解できるような職員会議を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 園児の姿の受け止めや寄り添いは、保育の考え方の違いなど、共有して同じ方向でできるように繰り返しの話し合いを進めてきた。柔軟な対応をすることの難しさも見られる時があった。</li> <li>○ 園児の家庭環境や発達を考慮し、園児を温かく受け止めることが出来る保育者が増えてきたことで、保護者の信頼を得ることができた。</li> </ul>
次年度に 向けた 改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園児一人一人を大切に職員の人権意識の向上を図り、意欲的に生活や遊びに向かう園児を育成する。</li> <li>○ 様々な地域の特色を教育・保育活動に活かし、豊かな心と健康な体を育む。</li> <li>○ 園の方針や活動内容など保護者や地域の方に理解してもらい、地域に根差した園づくりに努める。</li> </ul>		

(別紙様式2)

## 令和5年度 学校評価 自己評価報告(こども園)

こども園名 [ 京丹後市立かぶと山こども園 ]

こども園経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度こども園経営の重点(短期経営目標)	
<p>こども園教育目標 「元気な体と豊かな心、生きる力を持った たくましい子ども」 《元気 勇気 笑顔 つながれ仲間》 ～のびのび いきいき 仲間と共に輝いて～</p> <p>1 園児自らが興味関心をもって環境に関わり、心豊かでたくましく、生きる力を育てる。</p> <p>2 人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、人権を大切にすることを育てる。</p> <p>3 相手の思いを受け止めながら、自分の思いや考えを表現する力を育てる。</p>	<p>○小学校の行事や中学生の職場体験等を通して、小、中学生と触れ合うことで親しみをもつことができた。また、中学校生徒会活動の一環としてのSDGsの取組を久美浜学園で共有し、共に活動を進めることで学園内のつながりを深めることができた。</p> <p>○身近な自然環境『わくわくひみつきち山』を活用し、散歩や運動遊びを多く取り入れたことにより、最後まで物事をやりきるたくましい園児の姿が見られるようになった。</p> <p>○ホームページや保育業務支援システムを活用して保護者と園での活動や園児の姿を共有することで、園の教育・保育への理解や信頼に繋げることができた。</p> <p>△保育実践を通して研究主題に迫った環境づくりや援助の仕方等について、時間やその方法などの計画性の弱さから十分に検証することができなかつた。</p> <p>△クラスを超えて保護者同士が子育ての楽しさや悩みなどを気軽に交流できる機会をもつことができなかったため、十分な子育て支援の役割が果たせなかつた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が安心して自己発揮できる環境や関わりを工夫し、自己肯定感を育む。</li> <li>・身近な自然を活用した遊びの場を意図的・計画的に取り入れ、主体的で協同的な活動ができる環境を工夫し、健康な心や体、豊かな感性や表現力を養う。</li> <li>・友達と関わったり協同的な遊びや活動を繰り返したりしながら、豊かな人間性の基礎を培う。</li> <li>・地域の人や自然、文化に触れる機会を設け、生活体験や社会体験を豊かにする。</li> <li>・安心安全な環境のもと教育・保育の向上に努める。</li> </ul>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
<p>保 幼 小 中 一貫教育 の推進 (保 幼 小 接続)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久美浜学園の教育目標、目指す子ども像に向けて、基本方針を理解して取組を進める。</li> <li>・保育所、園、小学校と連携し、相互理解を深めながら一貫性・連続性のある指導に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久美浜学園の指導の重点や取組の柱とする内容を新しい職員体制の中、共通理解し、実践し検証していく。</li> <li>・学園内の園所や小、中学校と合同研修の場(公開校、研修会、担任会等)を設け、学園の重点目標に向けて一貫性・連続性のある指導へとつなげていく。</li> <li>・園児と児童、生徒との交流が深まるような学校行事(運動会、学習発表会、マラソン大会、生徒会活動など)の取組を学校と連携をとりながら企画し、スムーズな小学校との接続や豊かな心の育成につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○久美浜学園の重点や取組の柱が保育実践にどのように反映されているか、またその成果や課題はどこにあるか実践記録を通して検証していくことで、学園基本方針の共通理解ができた。</li> <li>○京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会において学園内3園所が共に発表し、その過程を幼児期の終わりまでに育みたい10の姿に捉えて共通のまとめ方を行った。その報告を通して園所、小学校、中学校の指導のつながりを確認することができた。</li> <li>○小学校1年生との生活科での授業交流では、園での遊びと小学校の学習との接点が多く、園児の小学校生活や学習への意欲や期待感につながる良い機会となった。</li> </ul>

教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい園生活を繰り広げる。</li> <li>・主体的、協同的に活動する力を育てる。</li> <li>・人とつながりあうことの喜びを味わい、人と関わる力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児一人一人の姿を肯定的に受け止め、「温かく包み込まれている」という安心感のもと自信をもち自己を発揮できるようにする。</li> <li>・「自分大好き！先生・友達大好き！こども園大好き」と思えるよう互いを認め合える居心地の良い環境づくりを行う。</li> <li>・身近な自然の中で体を思い切り動かし、友達と一緒に感じたり、考えたりする感動体験を積み、主体性、協同性の育成につなげていく。</li> <li>・異年齢児や地域との交流を行い、遊びや体験を通して人を思いやる気持ちや人と関わる楽しさ、また地域を愛する気持ちを育てるように進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一つ一つの活動に頑張る個々の姿をしっかり受け止め認めることで園児は自信を付け、自己発揮しながら活動を進める姿が多く見られるようになった。</li> <li>△伸び伸びと園生活を送る園児は増えつつあるが、友達のよさに気づき園児同士が認め合えるつながりは、十分にもてななかった。</li> <li>○裏山での遊びの環境を意図的に多く取り入れたことで、体を動かしたり、自然を通して感じたり考えたりする体験を積むことができた。</li> <li>○地域の方にお世話になり栽培活動や音楽鑑賞などの取組を行うことができ、人への親しみや感謝の気持ちを育むことができた。</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が安心して子育てができるように支援する。</li> <li>・家庭の教育力向上を図るとともに家庭と連携し、「共育て」を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の何気ない話や相談に丁寧に耳を傾け、保護者が「話を聞いてほしい」「先生の話聞いてみたい」と思えるような関係づくりをする。</li> <li>・園庭開放日や園開放日を通して、親子が楽しい雰囲気の中で子育てについて交流できる場を設定し、子育ての楽しさを共有する。</li> <li>・園児の様子をホームページやドキュメンテーション等を活用して保護者にタイムリーに伝え、安心、信頼される園づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△日々、対話に心掛けてきたが、十分な関係づくりができないこともあり、保護者の不安感が少し残ってしまうことがあった。</li> <li>○園庭開放日に保護者会と共にクリーンデーを設けたことで、保護者同士の交流が盛んになり、つながりを広げることができた</li> <li>○定期的なドキュメンテーションの配信により各学年の保育内容についての理解を深めることができた。また、アプリでの配信により保護者の既読が確認できるようになり、お願いやお知らせ等が周知しやすくなった。</li> </ul>
特色ある園づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人や自然環境を生かした活動を多く取り入れ、地域と協働した教育・保育を目指す。</li> <li>・自然体験や環境学習を通してSDGsについて考え、毎日の生活の中でも意識付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティアや保護者の協力のもと、身近な自然環境を生かした遊びや活動の環境を整え、主体性、探求心、創造力、コミュニケーション力また人に対する愛情や信頼関係などを育むようにする。</li> <li>・山遊びや散歩を通して森林や草花と触れ合い、自然に親しみ理解したり、アルミ缶回収、ペットボトルのキャップ収集また微生物による堆肥づくりなどの取組から環境を保護する意識を育んだりして、生命や自然、もの等を大切にすることを習慣化していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者会本部役員の積極的な協力により、裏山遊びを安全、安心に進めることができた。また、その遊びから自立心や創造力も培うことができた。</li> <li>○中学生のペットボトルキャップ集めや保護者会のアルミ缶回収に協力することで、身近なごみや廃棄物に関心をもち、自然環境を保護する意識を育むことができた。</li> <li>△積極的に栽培活動を取り組んだり、飼育物を通して愛情や生命の尊さについて意識したりしてきたが、行動や態度に結びつけることは難しかった。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中一貫教育の取組を分かりやすく保護者に伝え、理解してもらえるよう努める。</li> <li>・認め合い、支え合い、人とつながる心地よさを味わえるような教育・保育の充実を図る。</li> <li>・地域や保護者の協力のもと自然体験や環境学習を積み重ね、園児のSDGs意識を継続するとともに態度を習慣化していけるよう努める。</li> </ul>		